

あいさつで元気な明るい学校づくり

勝山市立勝山中部中学校

1 取り組みの概要

(1) 地域や家庭と学校の連携実績

項目	回数
地域・学校協議会	3回
中学校区を単位とした協議会	3回
地域及び家庭への学校公開	12回 (のべ) 12日

(2) 地域人材の活用 (のべ人数)

講師・ゲストティーチャー	11人
授業ボランティア (含: 低ボラ)	0人
登下校支援ボランティア	0人
その他 ()	人

(3) 特色ある活動

テーマ「ふるさと教育」

地域清掃活動

本校で伝統となっている「浄土寺川清掃」であるが、昨年度より「地域清掃活動」と銘打って、1年生は学校敷地周辺の清掃活動(草取りやゴミ拾い)、2年生は学校周辺の公園を中心としてその近辺の清掃活動、3年生は伝統の浄土寺川清掃に取り組むようになった。長年を通しての「浄土寺川清掃」で、地元自治体や地域の方々の支援をいただきながら、川がずいぶんときれいになり蛍が飛び交う河川へと変わってきた。生徒達は学校の活動にお世話になっている地域に対して、地域の美化活動で恩返しができないかを考えて現在の取り組みになった。生徒たちは活動の趣旨を理解し、黙々と作業に取り組み、地域の方と一緒に活動する場面も見られるようになってきた。



3年生の浄土寺川清掃



ゴミ回収の様子

しかし、活動前に行われた勝山市の環境保全推進コーディネーターである前園泰徳氏の講演で「なぜこれまで続いている浄土寺川清掃で、完全にゴミがなくなるのであろうか?それは拾ってもまた捨てる人がいるから。(きれいにするという)情報を発信していかなくてはならない。」という言葉が生徒や地域の心を動かした。地域学校協議会の中では、区長さんより「川にゴミを捨てないような広報活動を地区として取り組んでいきたい。」「大人がもっとしっかりしないといけない。」等の意見が出されるようになった。



地域学校校議会

今後は、さらに地域の方々との連携を強くして私達が住んでいる地域に関心を持ち、美化活動に貢献していきたいと考えている。

成果と課題

活動自体は大変有意義に行われており、生徒たちの取り組みも良いと感じる。しかし、生徒が活動を続けていってもまた汚す大人がいる限り、浄土寺川から完全にゴミがなくなることはない。長年続いている行事の裏にはそのような事実が隠されていたことを、教員と生徒及び地域が共に理解し、その現状を変えていくためには何が必要かを考え、地域と共に活動していかななくてはならないと感じた。